

保健体育科『カーリングのまち』シラバス

北海道常呂高等学校

学年	2・3	単位数	2	授業形態	一斉
教科書 (出版社)	なし		副教材等 (出版社)	なし	
学習目標	<p>カーリングについての専門的な理解及び高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、心と体を一体としてとらえ、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してカーリングの振興発展に寄与する資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。</p> <p>カーリングの専門的な知識や高度な技能の総合的な活用を目指した課題研究を通して、生涯を通じた豊かなカーリングライフの実現及びカーリングの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。</p>				
学習方法	<p>(前期) 課題研究や実習などの知識を活用する学習活動を行う。</p> <p>(後期) 実習、体験、発表などの探究的な活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る。</p>				
学習 評価	評価の観点		評価の観点の趣旨		
	ア	知識・技能	<p>技術(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、歴史、文化的特性や現代の特徴、効果的な学習の仕方及び豊かなカーリングライフの設計の仕方を理解している。</p> <p>運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。</p>		
	イ	思考・判断・表現	<p>生涯にわたる豊かなカーリングライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。</p>		
	ウ	主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。</p>		
評価方法	①	②	③		
観点	観察	生徒との対話	ワークシート		
ア	○	○	○		
イ	○	○	○		
ウ	○	○	○		

学習計画

学期	課題	学習内容	評価の観点			評価規準	評価方法
			ア	イ	ウ		
前期	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルのカーリング教科書作り、実技練習 生徒による指導実践練習 	<ul style="list-style-type: none"> 一から競技についての学習や実技練習を行い、指導につなげる為のオリジナル教科書を製作する。 カーリングホールにおいて指導側と生徒側に分かれ、それぞれの立場から効果的な指導方法について学ぶ。 				<p>(1) カーリングのルールや得点方法を正しく理解し、氷の状態やストーンの配置に応じた効果的な作戦を考えたり、チーム内で適切な指示や情報を出し合ったりすることができる。カーリングの専門的な技術や戦術、安全な指導法を正しく、分かりやすく解説する「教科書」を作成したり、大会の審判や進行などの役割を正確にこなしたりすることができる。</p> <p>(2) 自分たちのチームや相手の状況を分析して、得点につながる最適な作戦を判断し、ショットのねらいやスリーブの指示を仲間に分かりやすく伝えたり、試合の展開に応じて作戦を練り直したりすることができる。</p> <p>相手のレベルに合わせた効果的な教え方や、大会を盛り上げるための運営方法を工夫し、研究した成果を教科書の構成や大会の企画として論理的に表現することができる。</p> <p>(3) カーリングの奥深さや面白さを存分に味わうために、自分たちで戦術を考え、積極的にショットの練習やスリーブに挑戦できる。また、自ら進んで指導法や運営の課題を見つけて解決しようとし、より質の高い教科書づくりや大会の成功に向けて、仲間と協力しながら最後まで粘り強く取り組むことができる。</p>	①②③
後期	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生へのカーリング指導 カーリング大会の運営補助 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生の指導を年10回程度予定。各小学校の指導体制や学年に応じた関わり方を実践する。 アドヴィックス常呂カーリングホールにおいて小学生を対象とした大会を開催し、運営に関わることで競技をあらゆる角度から学ぶ。 					